

「CE 志望者拡大に関するアンケート」 調査報告書 ～各都道府県技士会における広報活動の実態～

CE 志望者拡大プロジェクト委員会

現代医療における医療機器の重要性が益々拡大化するなかで、“臨床工学技士”（以下 CE と
言う）の必要性も拡大化傾向にあります。

一方、昨今厚生労働省は医療機器の適正な操作や保守管理に関し、薬事法や医療法を改正し
て安全確保を施策として掲げ、医療機器管理室の設置の推進や生命維持管理装置に対する医療
機器安全管理等に対して診療報酬を新設するなど、CE の活用が図られております。

以上のような環境下において、CE の必要性（需要）は著しく増加してゆくことが期待され
るものの、新たに資格を取得する若手 CE の数（供給）は伸び悩んでいます。

その理由の一つは“CE”の知名度がまだ低く、供給源の専門学校・大学の CE 課程への進
学志願者が少ないことが主要因と考えられます。

以上のような観点から当会は平成 22 年度から「CE 志望者拡大プロジェクト委員会」を発
足させ、その第一ステップとして各都道府県技士会における CE 志望者拡大に関する広報活動
の実態を下記の方法で調査し、今後の活動の基本データとして活動を行ってゆくことにしまし
た。

1. 調査方法

E-メールによる配付回収法

2. 実査期間

2010 年 5 月 27 日～2010 年 7 月 24 日

3. 調査対象

47 都道府県臨床工学技士会

本号では、上記の調査結果を報告しました。

「CE 志望者拡大に関するアンケート」調査報告書

～各都道府県技士会における広報活動の実態～

井福 武志, 加藤 博史, 守澤 隆仁, 東 和美
(社)日本臨床工学技士会 CE 志望者拡大プロジェクト委員会

I. 調査の概要

- 1. 調査目的**
各都道府県技士会における CE 志望者拡大に関する広報活動を多方面からとらえ、当委員会が実態に沿った活動を行うのに役立てるとともに、各地域の広報活動を明らかにする基本データとして、各方面での利用に供する。
- 2. 調査事項**
広報活動の有無, 対象, 目的, 内容等
- 3. 調査方法**
E-メールによる配付回収法
- 4. 実査期間**
2010年5月27日～2010年7月24日
- 5. 調査対象**
47 都道府県臨床工学技士会
- 6. 回収率**
100%
- 5. 活動対象として最も重視されているのは高等学校および一般市民であり, 技士養成校以外の大学は対象外であった.**
- 6. 具体的な活動内容はどの項目も均等に重視されているが, 最も重視されているのは進路指導担当者に対する学校訪問, およびパンフレットや DVD 等の資料送付であった.**
- 7. 広報活動の際には日本臨床工学技士会や JAEFCET (日本臨床工学技士教育施設協議会) などの既存の資料や情報が主に利用されているが, 技士会独自の資料等も活用されている.**
- 8. CE 志望者拡大を図るためには, 知名度向上が一致した意見であり, その手法として, ①教育機関へのアプローチ, ②メディアの活用, ③イベントへの参加および開催があげられた.**
- 9. 当委員会への意見・要望は主に「広報活動」および「情報提供」に関する事項であった.**
- 10. 今後, 当委員会からの資料を希望するとの回答が 100%であった.**

II. 結果の概要

1. 広報活動を実施しているのは 27 (57%) 都道府県であり, 活動実績は平均 5.52 年 (最小値 1, 最大値 17), 年間 1.7 回 (最小値 1, 最大値 5) であった.
2. 今後も技士会として活動がない・もしくは未定との回答が 12 府県 (25.5%) であった.
3. 広報活動を実施していない, もしくはできない理由として「人手や時間の不足」および「活動方法がわからない」が約 75%であった.
4. 活動目的はどの項目も均等に重視されているが, 最も重視されているのは臨床工学技士の「地位・知名度向上」であり, 次いで「志望者の増加」であった.

III. 結果の詳細

1. 広報活動の現状 (図 1)
(回答数; n = 47)

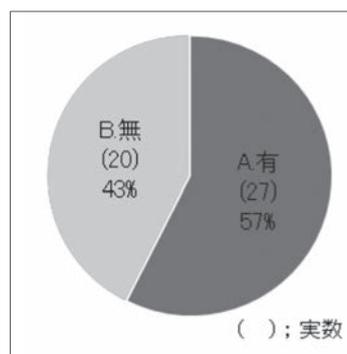


図 1 活動の有無

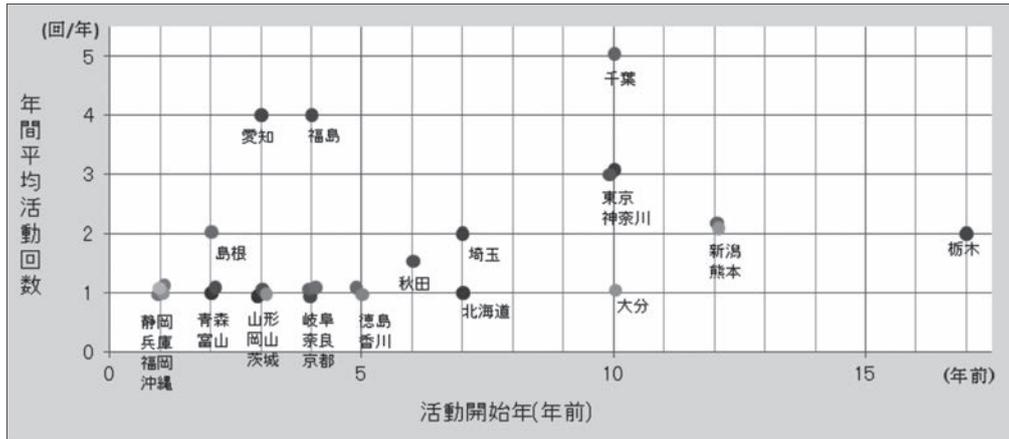


図2 各都道府県技士会の活動実績

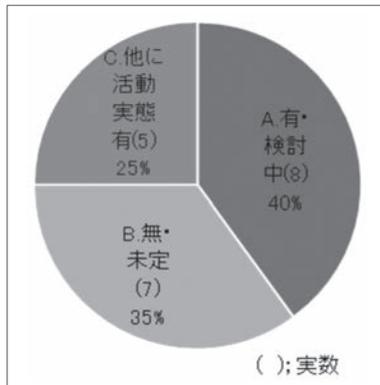


図3 今後の広報活動

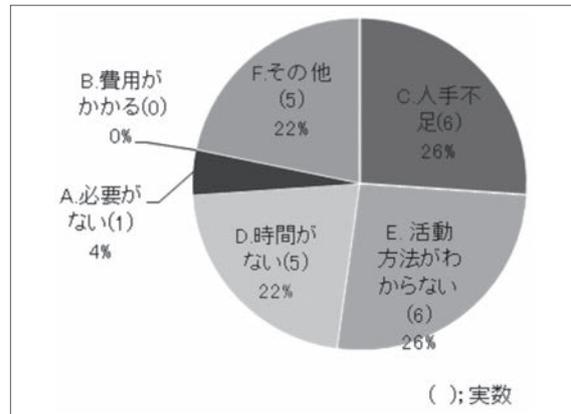


図4 広報活動を実施していない、もしくはできない理由

A. 活動している

過去__年前から年間平均__回位

B. 活動していない

「A. 活動している」と回答があった都道府県技士会の詳細 (n = 27) (図2)

2. 今後の活動予定 (図3)

「B. 活動していない」(n = 20) 単一回答

- A. 現在、活動を予定・または検討している
- B. 今後も活動の予定がない、もしくは未定である
- C. 技士会として今後も活動の予定がない、もしくは未定であるが養成校などの活動実績がある

3. 広報活動をしていない、もしくはできない理由 (図4)

複数回答 (n = 12)

- A. 必要性を感じないため
- B. 費用がかかるため
- C. 人手不足のため
- D. 時間的余裕がないため
- E. 具体的な活動方法がわからないため

F. その他

「F. その他」の回答

- ・発想がなかった。
- ・毎年ではないが、技士会宛でなく、勤務先病院へ中学校から要望があり、CEの紹介をしたことはある。
- ・養成校の広報活動として病院勤務の臨床工学技士が高校へ訪問したことはあるし、今後も行われることもある。当然、臨床工学技士の教員も志望者拡大のための広報活動を業務として行っている。
ただし、技士会の活動として現時点広報活動の方針はなんら決まっていなしい実績がないので、上記の回答となる。
- ・以前に県内の高校に対して広報活動を実施したいと考え、教育委員会へ当会の意向を打診してみたが、門前払いであった。(当時は任意団体であった。) 現在、公益法人を目指しているためこの件が達成できたら再度挑戦してみようと考えている。
- ・以前に学校へ直接アプローチしてみたが、教育委

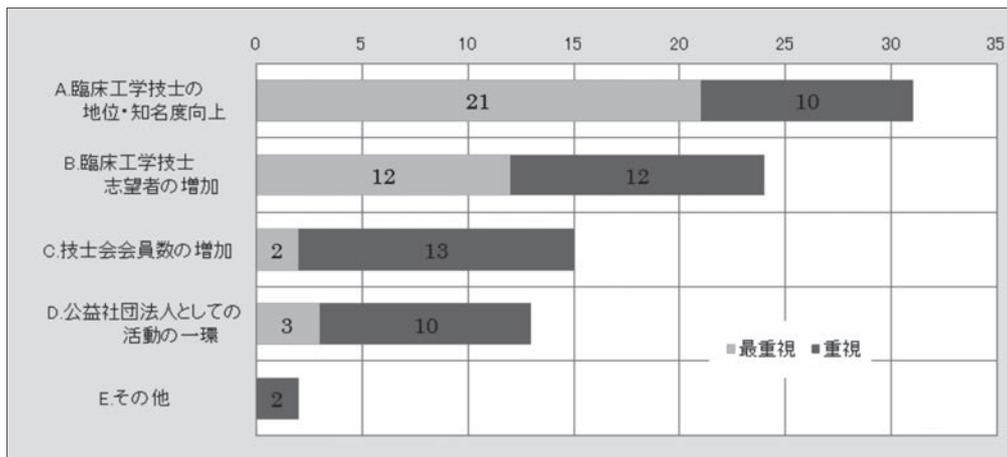


図5 広報活動の目的

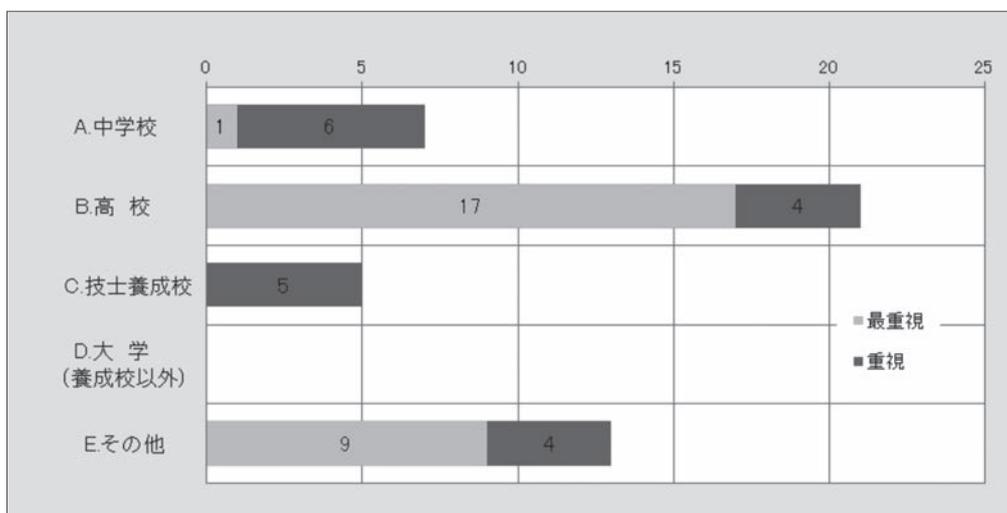


図6 広報活動の対象

員会を通してということだった。

4. 広報活動の目的 (図5)

複数回答可 (n = 35), 最も重視する項目を◎ (ただし, AとBを最重視が2件, AとDを最重視が1件) 「E. その他」の回答

- ・臨床工学技士養成校の学生に対しての情報発信.
- ・県内に就職を希望するCE学生も少なく, 地元の医療系専門学校に進学希望する高校生にアピールし, 地元の病院に就職希望が出ることを期待.

5. 広報活動の対象 (図6)

複数回答可 (n = 31), 最も重視する項目を◎ (ただし, AとBを最重視が1件, 重視のみ5件) 「E. その他」の回答

一般市民 (8)

- ・北海道道庁の1階ロビーで, 医療技術者団体があつまるパネル展を一般の方へ向けて実施.

- ・ご本人と, 家族や親戚などのお子様へ臨床工学技士の存在を理解して頂くため.
- ・学校の進路指導者に宣伝活動をするのは, 専門学校という特定に対しての営利をもたらすものと考えられるので, 一般市民向けに勧誘等の営利目的のない公益事業 (広報) 活動を行っていききたい.
- ・京都医療推進協議会主催のイベントにブース出展. くらしと健康展へのブース出展.

不特定多数 (3)

- ・東京都看護協会, HOSPEXのイベントに一般, 高・大学生などの参加者に対してアピールしている.
- ・都内各高校へのアピールについて, 技士会として何度か検討されたが都内近県養成校からのアピールもあり, 積極的には行えなかった.
- ・地域 (不特定多数) の方への広報実施. 今後は, 中学・高校のPTAを対象に広報活動を実施する予定である.

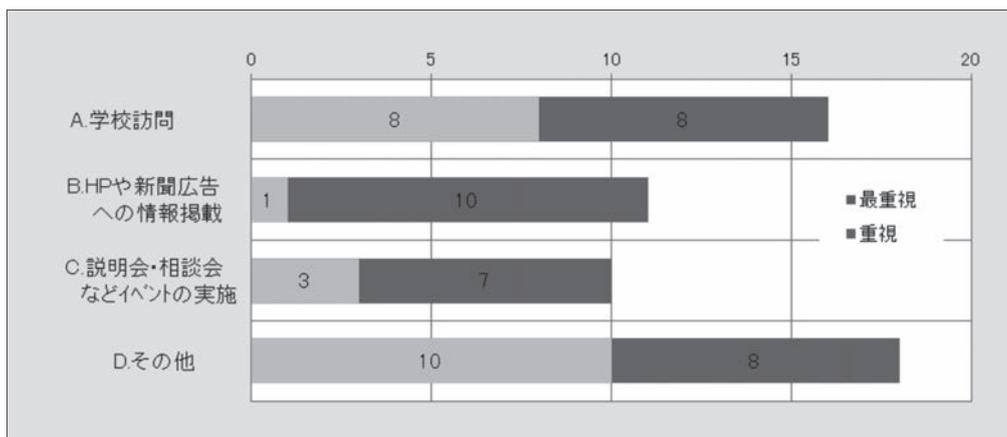


図7 具体的な活動内容

・ラジオ等への出演.

進路指導教員 (検討中: 1)

・今後高校生・進路指導教員に臨床工学技士学校の紹介と業務紹介を当会で行うことを理事会で検討しています.

他職種の医療関係者 (1)

未記入 (1)

6. 具体的な活動内容 (図7)

複数回答可 (n = 31), 最も重視する項目を◎ (ただし, AとD最重視が1件, 重視のみ10件)

A. 学校訪問

・学生・進路指導者への案内.
・養成校卒業者に向けて, 技士会入会のPR.
・PTAを通して, CEの存在と業務内容等の活動の場を設定する予定.

B. HPや新聞広告への情報掲載

・地方紙へ現代医療を支える専門職臨床工学技士を掲載.
・HPにて臨床工学技士の役割を掲載し, 新聞広告は二十歳の献血の広告欄に毎年掲載.

C. 説明会・相談会などイベント実施

○市民公開講座の開催・参加 (4)
○イベントの開催・参加 (8)
・広く一般の方に知って頂くことを目的に, 市民公開講座を年1回実施.

・総会時に市民公開講座を開催.
・市民公開講座一般市民公開機器展示および業務紹介イベント.

・オープンで無料参加の勉強会やセミナーを開催し, 臨床工学技士の存在と役割について他職種に説明. その結果, 子供や親族で臨床工学技士を目指す人達が増えた.

・千葉県内, 4市主催 (日程は別々) の健康フェアに参加し, 臨床工学技士として市民の健康状態チェックや, 市販品の自動血圧計の精度を測定しアドバイスをを行っている.

・HOSPExや看護フェスタなどで当会のブースを確保し, 養成校のパンフレットなどを置いて様々な相談を受けている. また, そこで臨床工学技士の初版DVD (1000本) を流し存在をアピールしている.

・京都医療推進協議会主催のイベントにブース出展. くらしと健康展へのブース出展.

・県主催の健康フォーラム.

・大分県保険医療福祉協議会の元気フェアというイベントでは, 担当者が高校に連絡を入れてくれる. イベントでは, 各団体で展示などを行い説明している.

・腎キャンペーンに共同参加して, 街頭にてドナーカード配布活動を実施.

・高等学校, 救急隊と共同で高校生を対象にAEDや救急蘇生の実技訓練を実施.

・岐阜県下のマラソン大会に技士会のゼッケンを付け, 白衣等の仮装で参加.

D. その他

○学校宛に DVD やパンフレットなどを送付 (6)

○職場体験の受け入れ・実施 (2)

- ・県技士会の紹介をはじめとした挨拶文. 希望があれば地区の担当者が訪問する予定であったが, 問い合わせがなく断念.
- ・日臨工が作成した DVD 「いのちのエンジニア」を当会が購入して, 養成校に依頼し県内の高校に配布.
- ・当会会誌を県内の高校宛に送付.
- ・臨床工学技士紹介を県下の高校へ送付.
- ・県内の全高等学校に DVD, パンフレットを送付.
- ・兵庫県下の高等学校 (183 校) の進路指導担当者宛に臨床工学技士の職業案内, 日本臨床工学技士会・日本臨床工学技士教育施設協議会の HP を紹介. DVD 「いのちのエンジニア」と近畿圏の臨床工学技士養成校および大学のリストを同封し郵送.
- ・中学生を対象に職場体験を実施.
- ・高校側から職業人講話として地域の病院などに講演依頼があり, 技士会から講師を派遣する場合もある.
- ・養成校の学生に対して, 当会の学生会員 (準会員) として, 正会員とともに勉強会・講演会に参加頂いている.
- ・養成校の学生による街頭アンケートのバックアップを実施.
- ・今後, 理事会にて検討予定.

7. 活用する資料・情報

複数回答可 (n = 31) (図 8)

「E. その他」の回答

・県内の就職先や各病院に勤務する技士数などの情報を提供. またダイアライザーを使用した簡単な実技を取り入れている.

・必要に応じて, AED の場合など, メーカーの協力を得て使用.

8. CE 志望者拡大を図る手段

自由回答 (n = 32)

要 約

社会的に臨床工学技士の認知度は低く, 志望者拡大を図るには, まず知名度向上が最重要課題である.

最も効果的な方法はテレビ番組などで取り上げられることであるが, 持続的な効果を狙うにはテレビ・新聞広告等への掲載も視野に入れたほうが良い. ただし, 具体的にどのようにテレビ番組などで取り上げてもらうかの意見はなかった.

現実的には, 地域単位での学校訪問が有効と考えるが, 教育委員会や進学指導に関する協議会, および臨床工学技士養成校と連携することで効率的に学生および進路指導者への知名度向上を図る. 具体的には教育機関へ働きかけ, 職業人講話の実施や職場見学, 職業体験の受け入れ等があげられた.

また, 一般市民向けには地元開催の医療・福祉に関するイベント等でのポスター掲示や, 「いのちのエンジニア」等の DVD を上映するなど啓蒙活動が行われている.

1) 教育機関へのアプローチ

・卒業生が出身校の就職担当の先生に就職の挨拶を兼ねて, 学校訪問してもらうのがベストではないか.

・知名度 UP はもちろんであるが, 臨床工学技士の

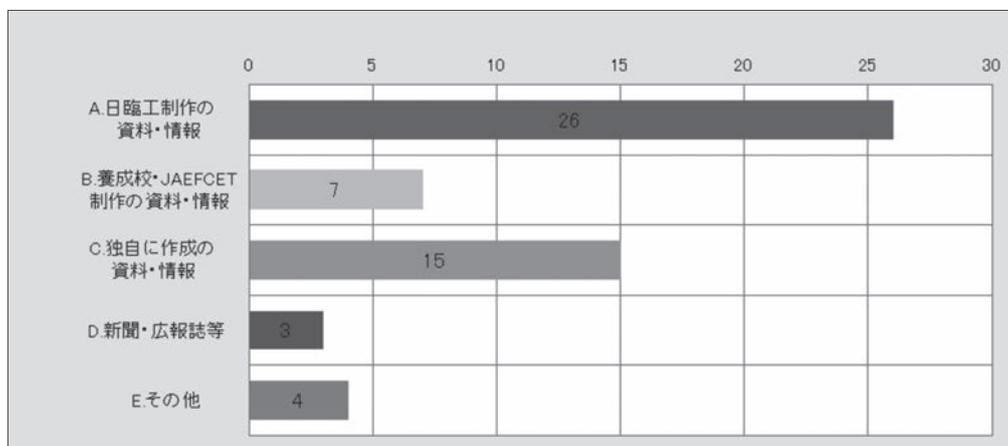


図 8 活用する資料・情報

仕事とはどのようなことなのかを紹介する必要がある。特に進路指導を行っている中学・高校の先生方が名前すら知らないのが現状である。

- ・今の若者で、将来を考えて勉強している人は、少ないと思われる。本来は中学生くらいを狙って学校訪問が良いかもしれないが、まずは高校の生徒たちが我々の職種と仕事をあまり知らないこと。これが問題と思われる。既に、臨床工学技士になっている学校のOBたちが出身高校に向いて伝えられたら良いと思います。技士会から担当の先生に送っても見てもらえるか分からないと思います。高校の先生自体が臨床工学技士の資格があることや、業務を理解してないと聞いたことがあります。生徒と同時に先生方にアピールすることも重要かと思えます。
- ・当会が直接高校に出向き臨床工学技士についての説明等の広報活動は行っておらず、養成校を経由したかたちで県内の高校に広報を行う手段を講じている。
- ・県内の全高等学校にDVD、パンフレットを送付。
- ・教育委員会へのアプローチ。学校単体で訪問するより効率的と考え今年度予定しています。
- ・(社)秋田県臨床工学技士会が学会で、高校生への職業説明会を開催しているとの活動報告をうけ、奈良県では、高校生の進学指導者連絡協議会に21年度(H2月)初めて参加することができました。(奈良県内の高校9割が参加)この協議会は年2回開催されていますが、高卒の就職難、大学進学後の就職難、と進学後の就職での相談が深刻化しているためか非常に熱心に説明を聞いてもらい、給与などの処遇についての細かい質問をうけました。昨年までは、事務局にパンフレット(施設協議会)をもっていただけでしたが、今回初めて会議の場に参加できました。このことは、一般社団法人としての立場を認めてくれたからです。各府県に進学指導者連絡協議会のようなものがあれば、ここへのアプローチはかなり有効と考えます。
- ・和歌山県は半島型の地形でもあり、交通の便が悪い地域であります。県内技士は県内高校卒業者が多いため地区担当技士で分担する方法も思案しており、実際に臨床現場で働くCEの声を生で聴いてもらうことを考えています。また、県教育委員会への働きかけを考えております。
- ・知名度のアップが必要。当県には養成学校がない

こともあり、高校へのアプローチが重要と考えている。

- ・高等学校との連携を強化し、臨床工学技士の存在感をアピールする。
- ・県内高等学校への案内。
- ・佐賀県には、養成学校がありませんが、福岡の養成学校を卒業した会員が多いということもあるので卒業生として、学生との交流がもてたらと考えます。
- ・高校の教育の一環として色々な職種の人たちの体験談を聞かせる時間を作ってもらえたらよいと思う。現在の学生は将来的にどのような職業に就きたいかという具体的な考えがなく、ただ進学すればよいと考えているようだ。将来へ向けての具体的な職業に対する知識があったら就学意識ももっと変わってくるのではないかと思う。そのような教育の一環として臨床工学技士の業務紹介の様な授業時間を作ってもらえたら良いと思う。
- ・やはり、中学高校へのアピールが必要に思えます。当技士会としましても、PR活動をやっていかなければいけないと思っておりますが、なかなか時間に余裕がないのが現状です。
- ・第一に考えることは臨床工学技士の知名度を上げることが重要と思われる。看護部には中学・高校等から1日体験・職場見学がありますが、臨床工学技士へ希望する学生が少ないのが現状である。各都道府県技士会で中学・高校へ説明に行くことが今後の知名度上昇に繋がると思えます。
- ・実際に志望者拡大に活動しているのは、高校を訪問している各養成校の募集担当の職員、教員である。このため、臨床工学技士施設協議会と連携を効果的にとればよい。「いのちのエンジニア」のDVDは活用しています。日臨工あるいは各県臨工の活動は点の活動になる。養成校は面の活動をしているので、効果的に協力するといいたい。例えば、病院勤務の職員が高校に突然訪問するのは無理があるが養成校の担当者が訪問するとき一緒に行くのは無理がなく、具体的な説得力のある説明と先生や生徒も受け止めてくれる。病院勤務の臨床工学技士がそのような広報活動を行いやすい、日臨工からの依頼文書などがあればよいとも考える。実際的には、その場合の経費負担が発生するので勤務中に活動ができる状況になればよいのであるが…(ほぼ、ボランティアで協力してもらっているため養成校としては心苦しい)

2) メディアの活用

- ・テレビ番組で取り上げられるのが一番の知名度アップではないかと思う。まず中高校生に臨床工学技士の存在を知ってもらうために大事なことはマスコミへの露出だと思います。また若い人向けにネットを介しての啓蒙も必要ではないでしょうか。確かに単発で取り上げられても効果のほどは疑問かもしれませんが、それを繰り返すことによって知名度は上がってくるのではないのでしょうか。可能であればテレビやラジオなどのCMなどはどうでしょうか。また様々な就職の斡旋誌に取り上げてもらうことも大事でしょう。要は知名度を上げる方法を考えることだと思います。現状は救急救命士は知っているけれど、臨床工学技士は知らないという人が大多数だと思います。救急救命士はマスコミへの露出がかなり多くなっており、それだけ知名度が上がっています。臨床工学技士も知名度が上がれば、おのずと志望者も拡大してくると思います。
- ・CE志望者拡大を図る手段としては、やはりメディアを活用した広報活動が効果的であると思います。ポスター等の掲示も効果的と考えます。都道府県においては、施設、賛助会員等に協力していただき新聞にて広報することは効果的と考えます。地道な活動が、徐々に効果が上がってくると思いますので、継続的な活動が必要と考えます。
- ・職業としての臨床工学技士に関してTV等のメディアで取り上げられることや、ドラマ・映画で臨床工学技士を演じる方が多くなれば良いのですが…。現実には高校へのアプローチで、高校生・教師・父兄に知っていただくことが最も効果的かと存じます。
- ・マスコミ利用が一番効果的かと…。
- ・まだまだ一般人の臨床工学技士に対するイメージは低い。身近な情報ツールであるTVや新聞への呼びかけも必要ではないか？
- ・新聞広告やテレビ広告、各地方のタウン誌などに広告や記事を載せる。
- ・マスメディアを使ったPR活動。

3) イベントへの参加および開催

- ・本県では3年前より医師会、看護協会、医療機器ディーラー共同の一般市民向けの展示イベントを毎年開催している。一般市民に向けて医療職種の業務紹介や白衣での記念撮影、メインは医師によ

る腹腔鏡シミュレータを用いた手術風景などが行われている。このイベントに本県臨工もチーム医療の一員として参加し、地味ではあるが臨工業務の魅力を開発活動していきたい。例年好評で、親子連れの参加者も多い。広告費等費用のかかるイベントなので問題はあるが、本年度より本会も参加させてもらおうと交渉中である。

- ・医療・福祉関係イベントへの参加。
- ・都道府県が開催する健康・福祉に関する公的なイベントに医療機器とともに参加し、実際に医療機器が稼動している様子や日臨工製作のDVDなどを上映する。
- ・関連団体のイベント、例えば『看護の日』等で、臨床工学技士を一般の方々に知っていただく。そのためには関連団体との交流が必要であると思う。
- ・広く市民に、臨床工学技士を知ってもらうために幼稚園からの広報活動が必要である。学会を大規模にするのも良いが、地道な活動にエネルギーを注ぐべきである。キャラクターやグッズを作成し、医療関係者が参加するイベントではなく、一般市民が参加する様々なイベントに参加し広報活動を行うことが必要である。
- ・臨床工学技士体験説明会の開催。
- ・地域間交流を深めるために市民講座などを行っていく。
- ・一般市民を対象にした公益事業の展開。
- ・職場体験の実施。

4) その他

- ・知名度UP
- ・中学生の職場体験で病院に来る生徒は臨工をほとんど知らない。とにかく中学生を掘り起こすことが重要と思います。
- ・医療施設へのポスターなどの掲示。
- ・知名度の拡大が急務であると考えますが、その手段が思いつきません。

9. 当委員会への意見・要望

自由回答 (n = 21)

1) 広報活動に関わる事項

- ・高校生一日職場体験を活用し、日臨工で出しているDVDを担当教師に配布している。県技士会で自前で高校などの現場に出向いていければいいが、なかなか思うようにいけない。なんとって

ても知名度の低さがあり、学生や教師のイメージが極めて乏しい現実を何とかしたい。公益活動を含めた地道な運動が必要と思う。

- ・CE志望者を増やす即効性のある方法は、そんなに簡単ではないと思います。予算も限られていることですし。幼稚園、小中学校にも手をつけ地道な活動が必要であると思います。また、各都道府県技士会と日本臨床工学技士会が連携していくことも重要だと思えます。
- ・兵庫県下の高等学校（183校）の進路指導担当者宛にDVD「いのちのエンジニア」と近畿圏の臨床工学技士養成校および大学のリストを同封し郵送。この活動を毎年行うのは資金面で難しいので、日本臨床工学技士会からの援助（DVDの支給、購入費助成）などがあれば助かります。
- ・昨年TVに取り上げられたことの反響は大きかった。やはりTVの広報力は高いのでその活用を検討下さい。『臨床工学の日』を決め、駅前など人の集まる所で全国一斉にイベントを開催する。
- ・人材確保では、人数的なものもさることながら、個人の資質・能力の高い方がCEをめざすような諸策の展開をお願いいたします。現状では知名度が低いことも災いし、少子化のあおりを受け、新卒者の能力・資質が低下しているように感じます。このような状況が続くと、知名度の向上は期待できませんし、むしろ悪い意味での知名度が上がってしまうかもしれません。
- ・TV等の本職種紹介では人工心肺等の直接命に関わる場面が全面に押し出されている。周知されていない業務をいきなり人工心肺から紹介したのでは、責任の重大さから選択しづらいのではないかと考える。医療職として、もちろん責任の重さを教えなければならないが、とりあえず職種選択候補に入るように、ME機器管理や血液浄化等のもう少しソフトな一面からアプローチしてはどうかと考える。日本技士会、各県技士会の目的は同じであり、互いに協力しあうのが本事業の近道ではないかと考える。日臨工より早めに事業計画を県技士会におろしていただき、協調性をもった活動にしていきたい。

2) 情報発信および情報提供に関わる事項

- ・お願い文に「養成校の現状を見ると楽観視できない状況が窺え」と書かれておりますが、具体的にどのような状況なのか把握している情報を教えて

頂けますか？

- ・本来であれば中学校や高等学校で臨床工学技士志望拡大の広報活動をしたいところであるが、地元養成校があるため学生勧誘活動と重なってしまい、養成校の利益のための活動となってしまう可能性がある。その整合性をどのように考えればよいのでしょうか。
- ・直接、中学・高校に行かれて意見を聞いた方が良いと思います。（少子化なので、いかに我々の存在を学生が知る機会ができるか、など聞くために）
- ・日臨工が作成したDVD「いのちのエンジニア」の続編を作成して頂きたい。
- ・各教育施設では、オープンキャンパスを実施し、1年時には、実際の施設見学を実施している施設もあります。日臨工として、施設協議会との連絡を密にし、全国の見学受け入れ施設の発掘や、紹介を積極的にして欲しい。
- ・また、とても大変でしょうが、配布パンフレットも、定期的にバージョンアップしたものを作成し、全国の技士会へ配布して欲しい。今後は、説明会への専門部隊の養成と派遣が必要と考えます。
- ・他府県ではどのような方法を取っているのか情報発信をお願いします。
- ・とにかく知名度が極めて低い医療業種であると感じておりますので、マスコミ関連や最近では医療系テレビドラマが多いような気がしますので、以前に放送されたような、テレビ番組は一般の人や教育関係者、特に学生には話の切り口として効果的であると感じます。
- ・知名度を上げるための方法。委員会における広報活動のやり方や良い方法などを各県に説明会（提供）などを行ってほしい。
- ・医療現場での臨床工学技士の重要性を示す資料、養成校卒業後の就職率の良さなどを書いた資料作り。

3) その他の事項

- ・国公立大学への臨床工学技士養成校の実現
- ・今回のアンケート結果を参考に委員会として、何か結果を出して欲しいと思います。
- ・将来的に質の高い臨床工学技士を確保するための重要な委員会だと思いますので、期待しております。
- ・目に見える実績を得るまでは時間がかかると思いますが、根気よくご活動ください。
- ・頑張ってください。協力はいつでもします。

・最近の日臨工は地域の意見が反映されないような体制になっている気がする。そうならないように今年度実施予定の代議員制をうまく活用して欲しい。

10. 資料希望の有無

単一回答 (n = 47)

希望するとの回答が 100%であった。

IV. 総括

現在、臨床工学技士の地位・知名度向上および志望者増加を主目的に、各技士会の 57% (実数; 27) が広報活動を実施しており、養成校等を含めると 32 都道府県 (68%) に及ぶ。しかし、実績 5 年以下かつ年間 1 回程度の活動が半数を占め、現時点における評価は困難であり継続的な活動が望まれる。また、活動が行われていない理由として、「人手や時間の不足」、「具体的な活動方法がわからない」といった問題点が多く挙げられた。

活動対象は中・高等学校が大半を占めたが、技士会会員数の増加を目的に臨床工学技士養成校もその対象となっている。また、社会的知名度の低さを大きな弊害ととらえ、一般市民を含めた不特定多数へ

の広報活動を最重視する回答も多くみられた。現在は各地域にて市民公開講座の開催のほか、医療・福祉系のイベント等でのポスター掲示や DVD 上映などの啓蒙活動が行われているが、知名度向上には継続的なメディアの活用も効果的と考えられ具体案は今後の課題である。

中・高等学校へは、主に進路指導者を対象に学校訪問や臨床工学技士を紹介する資料等の配布が行われている。ただし、地域の全教育機関への働きかけは人員や時間的制限および費用の面からも限界があるため、教育委員会や進路指導に関する協議会等へのアプローチが効率的であることが示唆された。また、臨床工学技士養成校との連携は学生の動向など、より詳細な情報が得られメリットも大きい。地域によっては特定の養成校の利益となる可能性が懸念されるとの意見があった。将来的には、直接学生に接するような職業人講話や職場体験を通じて臨床工学技士が周知されるように、実例を参考に講師の育成や簡単な実技等を取り入れた理解しやすい内容を検討する必要がある。

最後に、当委員会へは広報活動のノウハウや資料の提供などで各技士会をサポートするほか、各都道府県技士会と日本臨床工学技士会それぞれの意見や要望を相互に反映させることが望まれた。

択 →設問 8 へ

参考資料

アンケート

貴会の広報活動についてお伺いします。

この場合の広報活動とは、対外的な PR (宣伝) 活動や、臨床工学技士志望者の拡大を目指す活動と定義します。(貴会会員に向けた情報発信などは含みませんので注意下さい。)

設問 1; 広報活動の有無をご回答下さい。

- A. 活動している 過去__年前から平均__回位
→設問 4 へ
- B. 活動していない →設問 2 へ

設問 2; 設問 1 にて B を選択した場合にご回答下さい。

- A. 現在、活動を予定・または検討している
→活動を開始すると仮定して、設問 4 へ
- B. 今後も活動の予定がない、もしくは未定である
→設問 3 へ
- C. 技士会として今後も活動の予定がない、もしくは未定であるが養成校などの活動実態がある
→設問 3 へ

設問 3; 設問 2 にて B または C を選択した場合にお聞きします。

現在、広報活動をしていない、もしくはできない理由をご回答下さい。(複数回答可)

- A. 必要性を感じないため
- B. 費用がかかるため
- C. 人手不足のため
- D. 時間的余裕がないため
- E. 具体的な活動方法がわからないため
- F. その他 (下記にお書き下さい) →設問 8 へ

設問 4; 広報活動の目的をご回答下さい。(複数回答可, 最も重視する項目を◎)

- A. 臨床工学技士の地位・知名度向上のため
 - B. 臨床工学技士志望者の増加を目指して
 - C. 技士会会員数の増加を目指して
 - D. 公益社団法人としての活動の一環
 - E. その他 (下記にお書き下さい)
- 最も重視する項目に A または B を選択
→設問 5 へ
- 最も重視する項目に C, D, E のいずれかを選

設問 5; 広報活動の対象をご回答下さい。(複数回答可, 最も重視する項目を◎)

- A. 中学校 (中学生および教員)
- B. 高校 (高校生および教員)
- C. 専門学校・大学を問わず臨床工学技士養成校 (学生および教員)
- D. 養成校以外の大学 (学生および教員)
- E. その他 (下記にお書き下さい)

設問 6; 具体的な活動内容をご回答下さい。(複数回答可, 最も重視する項目を◎)

- A. 学校訪問 (職業人講話, 進路指導担当者との面談など)
- B. ホームページや新聞広告への情報掲載
- C. 説明会・相談会などイベントの掲載
- D. その他 (下記にお書き下さい)

設問 7; 活動の際に活用する資料・情報 (DVD, パンフレットなど) をご回答下さい。(複数回答)

- A. 日本臨床工学技士会が作成した資料・情報
- B. 臨床工学技士養成校もしくは日本臨床工学技士教育施設協議会 (JAEFCET) が作成した資料・情報
- C. 独自に作成した資料・情報
- D. 臨床工学技士に関する情報が掲載された新聞・広報誌等
- E. その他 (下記にお書き下さい)

設問 8; 「臨床工学技士志望者拡大」を図るための手段として考えられる事項があればご記入下さい。(自由回答)

設問 9; 当委員会にご意見・ご要望などをご自由にお書き下さい。(自由回答)

設問 10; 当委員会では、皆様の「CE 志望者拡大」についての広報活動にご活用頂けるようプレゼン資料 (パワーポイント) を考えています。今後、「CE 志望者拡大について」の広報活動資料の希望有無についてご回答下さい。

- ・資料の配布を希望する
- ・資料の配付を希望しない

